

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104538		
法人名	医療法人 潤生会		
事業所名	たかまつグループホーム		
所在地	和歌山市西高松1-5-36		
自己評価作成日	平成28年12月28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070104538-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070104538-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年2月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宮本医院に併設されているグループホームです。医療行為の必要な方でも受け入れが可能です。入居されている利用者様には、どのような状態になられても、ご本人、ご家族の希望に沿い、看取りも含め、最後まで安心して過ごしていただく事が出来るように支援させていただいております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「一人ひとりに愛情をこめて」と理念に掲げ、職員は常に利用者の立場に立ち自分の親だったらと考えながら丁寧な言葉掛けや対応に努めています。利用者の重度化が進む中、職員は利用者が安全で安心して穏やかに暮らせるよう、職員の看護師を中心に隣接する母体の協力医と連携を図り、点滴や吸引などの医療処置が必要となっても医師や看護師から細やかな指示をもらいホームで長く過ごせるよう支援をしています。また日常的に家族の来訪が多く、花見などの行事や運営推進会議の他、年に1度の家族会は全家族の参加が得られており、家族との信頼関係を築いています。また日々の介護記録は利用者の様子や介護計画の実施状況を全職員が把握しやすいようフォーマットを工夫し職員間で情報を共有し日々の支援に活かしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりに愛情こめて」という理念のもと、自分の家族だったらどう思うかと、いつもスタッフ間で話し合い、日々の関わりの中で取り組んでいます。	「一人ひとりに愛情をこめて」と掲げた運営理念の基尊厳や家庭的な環境、生きがいなどの3項目を分かりやすい言葉で掲げています。理念はスタッフルームに掲示し、毎月の会議の中で利用者一人ひとりに合った支援や職員の仕事に向き合う姿勢など理念に沿ったものとなっているかを確認し理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体を通じて行事案内を頂いて参加させていただいたり、天気の良い日は散歩などしていますが、重度の方が多くなり難しくなっています。	気候の良い時は利用者と一緒に近隣を散歩したり、ホーム前を通るよさこい祭りの見学などの行事の際は近所の方と挨拶や会話をしています。併設のデイサービスには手品や紙芝居などのボランティアの来訪があり、利用者も一緒に参加しデイサービスの利用者やボランティアとの交流を楽しんでもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について、利用者家族や会議参加者に機会あるごとにお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の利用者の様々なことを報告し意見を聞き、話し合いながら、日々の業務に反映させ、サービス向上に努めています。	会議は数名の家族や利用者、民生委員や地域包括支援センター職員等の参加を得て開催しています。近況や行事予定等の報告を行い、感染症や運営推進会議の意義、防災等毎回テーマを決め勉強会をしたり、意見交換をしています。参加者からは有意義な意見が多く出されており、ホームの防災等に活かしています。またより多くの参加が得られるよう開催日の変更を検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実際のサービスの取り組みの中で疑問があれば電話で問い合わせるなど、繋がりを大切に、指示や意見を頂きながらケアに取り組んでいます。	分からないことがあれば、その都度市役所に電話で相談しアドバイスをしています。法人としても研修には力を入れており、役所から研修案内が届いた際はできる限り職員が参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、報告しあい理解を深めています。身体拘束をしないことで危険が想定される場合はヒヤリハットなどを活用しスタッフ間で共有し、玄関の施錠についても、安全のため、入居時に説明し、同意を頂いています。	身体拘束に関する外部研修に参加し、ホームで伝達研修を行い全職員に周知しています。言葉による制止にも留意し、利用者が安全に過ごせるよう些細な事でもヒヤリハットに取り上げ事故の防止に努めながら自由に過ごせるよう支援しています。ホーム周辺は車の通りが多く玄関は施錠していますが外に行きたい方には一緒に付き添い気分転換を図っています。	

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、内容について職員間で会議などで話し合う場を作り、利用者のケアに生かしています。運営推進会議などで勉強会をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成人後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成人後見制度については、以前に利用されていた方も居られます。必要性を感じた時には支援したいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族、ご本人と面談し、契約内容について、不安や疑問点について、十分に説明させていただいております。内容の改定時には、新たに説明させて頂き、ご理解いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しています。また、アンケートを実施したり、運営推進会議や日々の面会の時などのご要望を取り入れ、運営に反映しています。	利用者の希望は関わりの中で聞き意向に沿えるよう支援しています。家族とは信頼関係を築くことを大切にしており、来訪時や運営推進会議、アンケートの実施の他、年に1度の家族会は全員の参加を得ており、機会があるごとに直接意見や要望を聞いています。意見を受けて職員の顔と名前やその日の献立が分かるようホーム内に掲示するなど、得られた意見はサービスの向上に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常業務の中で各職員が活発に意見を発言し、日々の運営に反映させています。	日頃から職員が意見や提案を出しやすい関係作りに努め、日々の業務の中や毎月の会議は開催日を工夫することで全職員が参加し、積極的に意見や提案を出しています。また職員には防災や行事、会計などの担当があり、日常業務や日々の支援については現場の職員や各担当者が主体的に考え実践に取り組んでいます。また意見によっては法人に上げ検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	限られた環境の中ではありますが研修や講習へ参加できるよう、職員数を配置しています。安心して働ける環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に職員が交代で参加し、月間会議で内容を報告し、全職員で、共有しています。		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修など機会があれば積極的に参加し、同職種の方々と交流する機会を作っています。グループワークなどで意見を交換し気づきや反省点などを職員間で、話し合い、ケアに反映させています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用いただく前にご本人と面談し、ご要望等を聞かせて頂き、いろいろお話ししながら、少しでも不安等を軽減し安心してご利用いただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用いただく前にご家族とも面談し、心配なことや要望等を聞かせていただきそれに応じた説明をさせていただいて安心してご利用頂ける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、職員だけでなく医師、看護師、理学療法士等とも話し合いを重ね、今必要な支援について検討し、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テレビや雑誌などを見ながら最近のいろいろな話題でお話したり、昔の思い出話などをお聞きしたり、利用者との会話を大切に、支えあう関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ともケアについて相談し、一つ一つ理解しながら、ご本人、ご家族、職員が一緒に笑い会える関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居によってご家族と疎遠にならないようにご本人の要望などをお伝えし、出来るだけ訪問して下さる様にお願いしています。	孫やひ孫などの親戚や友人、関わりのあった知人などの来訪があり、居室に案内しゆっくりできるよう配慮をしています。本人の希望を受けて自宅を見に行ったり、家族と共に結婚式への出席や自宅に戻る方には本人や家族と相談しながら身支度を整えるなどの支援をしています。利用者の馴染みの関係について思いを知った時には家族に伝えることもあります。	

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座席の配置等をスタッフ間で話し合い、いろいろ検討しながら利用者同士がより良い関係を築けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調が悪化し、入院され、利用が終了した後も、時折お見舞いに伺い、その後の状況などをお聞きし、今後の相談や支援に生かせるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の可能な方には出来るだけ本人の希望や意向を聞き取るようにしています。困難な場合には、利用者の立場になり考えるようにしています。	入居時に利用者や家族から暮らし方の希望や生活歴などを聞き、家族にはこれまでの暮らしの状況などを書いてもらい情報を得たり、以前の担当者からの情報を合わせ意向の把握に繋げています。日々の中では利用者の言葉を介護記録に記入し、意思疎通が困難な方は表情などから推測し、カンファレンスで職員の意見を出し合い思いが把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活に関わっていたケアマネジャーから、今までの生活について情報を収集しより自宅に近い環境での生活の場になるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、利用者各人の残存機能や出来る事についてスタッフ間で話し合い共有し、それぞれの状況に合わせて支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況に合わせて、カンファレンスを開き、家族、スタッフ、看護師、必要に応じて医師の意見も伺いながら、その都度ケアの方法を検討し介護計画に反映させています。	利用者や家族の意向を基に介護計画を作成しています。毎月の会議では全利用者について変化や新たな課題が無いかを確認し、安定している方は3ヶ月毎にモニタリングと評価、再アセスメントを行い見直しています。見直しに向けては事前に利用者や家族の意向、医師の意見などを確認し、日々の記録や毎月の会議で集約した職員の意見を参考に介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や体調などを、職員間で共有しています。個別記録は介護計画の見直しの際に生かせるように利用者の状況をわかり易く記入するようにしています。		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、訪問看護の利用やデイへの参加などを検討し、スタッフ同士でも創意工夫しながら柔軟な支援に努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に1度の地域でのお祭り「おどるんや」の時には、利用者、家族も一緒に最前列で観賞できるよう、地域のかたがたにも配慮して頂き楽しんでいきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望されるかかりつけ医を受診していただいています。受診後、ご家族、主治医から情報を頂くようにしています。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えていますが併設の医療法人が母体でもあり、現在は全員が協力医に変更しています。協力医の往診は利用者の状態に合わせて月に1、2回あり、急な体調変化時などは職員の看護師、母体の医師や訪問看護師に相談し、往診を受けることもあります。また専門医は継続している方もおり、家族や職員が受診に付き添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されておりいつでも相談が可能です。また、訪問看護ステーションたかまつからの訪問もあり、本人の状況をいつでも相談できる状況にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はその病院に、できるだけ早くお伺いし、入院前の情報を伝えています。退院に向けてのカンファレンス等にも伺い、担当看護師から説明を受け、医療的な処置がある場合も対応できるよう連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、終末期のあり方についての希望などご家族、ご本人に伺うようにしています。またその都度ごとにご本人、ご家族、主治医等と話し合い、方針を共有し、支援に努めています。	これまでに隣接する母体の医師や訪問看護師と連携し看取り支援を経験しており、医師に毎日様子を報告し医師や訪問看護師から細かい指示をもらい支援に取り組んでいます。看護職員が配置されており、点滴や吸引などの医療処置のある方にも対応でき、ホームでできるだけ長く過ごせるよう支援をしています。医師の判断を仰ぎ入院となることもあります。医師の判断を仰ぎ入院となることもありますが本人や家族の意向を大切に支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の会議で、話し合ったり、研修し、また看護師の指導で、初期対応や応急処置についての訓練を行っています。		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施しています。今年からは、非常災害対策として、火災、地震、津波、防犯などにも対応できるマニュアルを整備し、いろいろな場合を想定した訓練を行うようにし、職員のほかに、地域住民、民生委員、地域包括、家族等多くの方に参加いただいています。	年に2回夜間を想定した防災訓練を家族や民生委員などの参加を得て実施しています。1度は消防署の協力を得て地震や津波などの災害時の避難場所について上層階へ避難するようアドバイスを得たり、独自の訓練では機器の取り扱いや脱出用シユートを使用した避難誘導などを行っています。運営推進会議で防災を議題に上げ参加者と話し合う機会を持っています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や着脱介助の際などはカーテンをするなど、プライバシーを損ねない工夫をしています。毎日の声掛けについても尊厳を損なう言葉を使っていないかなど、職員同士で注意しあい、尊厳とプライバシーの確保を心掛けています。	利用者を尊重した対応については理念にも謳っており、接遇マナーに関する研修も行い全職員に周知しています。基本的に利用者は苗字で呼び掛け、本人や家族の希望の呼び方をすることもあり個々に合わせた対応に努めています。不適切な対応が見られることは殆どなく全職員が丁寧な対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の着る服を一緒に選んだり、食べたいものや好きなものをお聞きし、メニューを相談するなど、利用者ごとに、自己決定できそうなことは声掛けさせていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調なども考えながら、なるべくご本人の希望通りの過ごし方が出来るよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日着たい洋服を一緒に選んだり、洗濯の方法にこだわりがある方には、そのように、など、その人らしくを大切に、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、調理する時には、一緒に出来るところを手伝っていただいたり、片付けにも参加していただいたりしています。それぞれの利用者の好き嫌いにも注意し、また、食べ易い形態にするようにも気をつけています。	利用者の好みを取り入れて1週間分の献立を立て、利用者は野菜の下ゆえや炒め物、洗い物などに携わり、職員は利用者と一緒に相談したり教わりながら一緒に食事作りをしています。クリスマスや祭りなどの行事の際には弁当を取り家族と一緒に食事を楽しんでいます。また蕎麦やそうめんを作ったり、正月の雑煮など、季節感にも配慮しています。おやつなどを食べに行くこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し常に問題ないか注意しています。摂取量が少なくなっている利用者がいれば主治医に報告し対応しています。利用者によっては食べる時間、早さなど異なりますが、出来るだけ十分に摂取していただけるようご本人のペースに合わせ、対応しています。		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来る方には声掛けし、見守り、確認させていただいています。介助が必要な方には、一人ひとりに応じた介助方法で、介助させていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握し、トイレの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っています。	排泄記録を基にパターンを把握し、個々の習慣やタイミングに合わせてトイレで排泄ができるよう支援しています。毎月の会議では個々の排泄状況についても検討し、本人の安心感などの思いにも配慮しパッドを使用したり、夜間ポータブルトイレを使用するなど利用者の状態を見て一時的に排泄用品を変更する場合もあり、個々の状況に合わせて自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く使用し、水分摂取量にも注意しながら、自然な排泄が出来るよう支援しています。必要に応じて、緩下剤を服用していただき便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに入浴の希望をお聞きしています。体調の良くない利用者の方は、体調の良い時を見計らって入浴できるように支援しています。	入浴は週に2～3回を目安に午前中に支援しています。本人の希望を聞きながら同性介助や浴室の外で見守ったり、重度の方も体調に配慮しながら湯船に浸かり温まれるよう支援をしています。また入浴を断る方には声かけの工夫や時間を変えて声をかけ、無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、お一人お一人の状況に応じて、好きな時に、好きなところで、お休み頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者について、飲んでいる薬の内容はファイルにして、職員がいつでも確認できるようにしています。服薬については、間違えないよう、複数職員で確認し、また症状の変化の確認をし、必要時には医師や看護師に報告しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に聞かせていただいた生活歴やその後の生活から好きな事や楽しめそうな事を皆で考え取り入れながら、毎日を張り合いや喜びのある日々となるよう支援しています		



たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	重度の方が多く、日常的に外出は難しいですが、状況が許せば、可能な方だけでもお散歩の機会を持つようにしています。また、毎年、ご家族らと一緒にお花見に行っています。	気候の良い時は交代でホーム周辺や近隣へ散歩に出かけたり、受診の際は家族と共に職員も同行し外出の機会にもなっています。また地域の祭りを見学したり、桜の花見では家族にも声をかけ協力を得ながら一緒に外出行事を楽しんでもらっています。利用者の個別の希望を聞き自宅を見に行ったこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で、お金をお預かりしていませんので、ご本人かご家族が管理されています。ご家族と一緒にご本人の欲しいおやつなど買い物に行くなど支援させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば自由にご家族に電話していただいたりイベント等を通じてお手紙を書いていただいたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の飾りを置いたりゆっくりと過ごせるスペースを確保し、居心地よく過ごしていただけるよう工夫しています。	共用空間は外出行事の写真や毎月季節に合わせた飾り付けを行い利用者の季節感に配慮をしています。畳のスペースには布団を用意し、昼寝や体調の悪い方がいつでも休めるようにしています。また数か所あるトイレやエレベーター前には休憩できるベンチを設けています。毎日掃除を行い利用者に聞きながら室温を調整し快適に過ごせるよう配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士がゆっくり話しが出来るようテーブルの座る場所を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人、ご家族の思うように、また居心地の良くなるように写真やご自宅での馴染みのものをご持参いただいています。	居室には馴染みのある物を持ってきてもらうよう伝え、危険なもの以外は自由に持ち込んでもらっています。ベットや筆筒、椅子などの家具の他、ひ孫からの手紙や写真、親族が映った結婚式の写真などを飾り、その人らしい安心できる居室づくりを支援しています。また体調の変化に合わせて家族とも相談しながら居室を変更することもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使って歩いていただいたり、利用者一人ひとりに応じた出来る範囲で安全に自立した生活が送れるように工夫しています。		